

北海道教育大学「南ユタ大学短期留学プログラム」帰国報告書
札幌校 教員養成課程 言語・社会教育専攻 社会科教育分野 5127 番匠美玖

私は8月31日～9月25日までの約4週間、アメリカのユタ州にある南ユタ大学へ短期留学をしました。今年度でまだ3回目の開催なのでこのプログラム自体の情報が足りなく、私のようにはじめて海外へ行く人間にとっては不安なこともあったので、“私が事前に知りたかった情報”をテーマにこの報告書を書こうと思います。

《出国前》

プログラムの申し込み用紙を書いた後に分校との合同ミーティング、保険やプログラム費の支払い、おたふくの予防接種などやらなければならないことが短期間に集中しておこります。今年度は開催決定が遅かったためか、振込用紙を渡された2日以内に振り込んでほしいなど、かなりバタバタしました。しかし、いずれも国際課からメールで期限の連絡などを逐一もらったので、スムーズに行うことができました。

荷物に関しては、なるべく消費できるもの・捨ててきてもいいもので揃えると、帰りの荷物の重量オーバーに怯えなくて良いと思います。また、毎日洗濯もできるので服も3日分あれば十分です。ユタのドラッグストアには日本製のシャンプーなども売っていました。また、やはりアメリカ人向けの食べ物は美味しいものでも段々と胃が疲れてきてしまうので、インスタントの味噌汁やご飯を持っていくとほっとできました。

服装については、日中外は暖かいのですが、学校内はガンガンに冷房が効いているのでとても半袖ではいられませんでした。ショートパンツもハイキング以外は一度もはきませんでした。また、放課後から夜にかけてはぐんぐん気温が下がっていくので、ほとんど上着を着て過ごしていました。

薬についてですが、やはり風邪薬・イブなどの万能痛み止めは最低3日分は持って行った方がいいと思います。

ホストファミリーについては、事前にはなんの情報も得られないままの出発でした。ユタの家族は大家族が多いので、お土産も多めに持っていくことをお勧めします。

《出国》

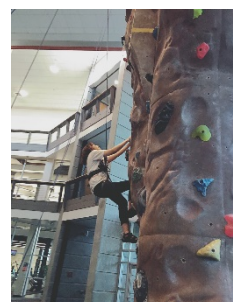
新千歳空港からマッカラン空港までは学生のみでの移動だったのですこし不安でした。また、今回は韓国経由で行ったので搭乗時間が計15時間ほどとなりとても疲れしました。C型の首に付けるクッションが役に立ちます。また、ラスベガスのマッカラン空港に着いた後、大学スタッフが車で大学まで送迎してくれるのですが、これも3時間ほどかかり、大学の駐車場でホストファミリーと出会った頃には真っ暗でした。

《プログラム》

9～12時はESLのクラス、13時30分～17時は課されるテーマについてのライティング、そのテーマについて韓国の学生とのディスカッションが平日は毎日行われます。

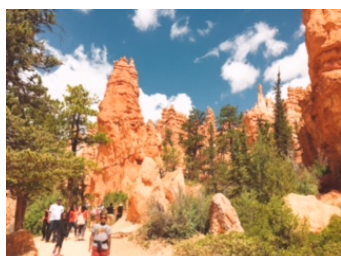
ESLのクラスではアメリカ人の先生が課題のトピックについてのお話をしたり、班ごとにプレゼンを作って現地の小学校や教育学部のクラスで発表しました。

午後のプログラムは私にとっては1番ためになり、かけがえのない友達ができた機会でした。事前にディスカッションの準備ができるので自分の考えをスムーズに伝えられ、会話も弾みました。韓



**P. E. ビルディングの
クライムウォール**

国の学生は英語がとても上手だったので、私が言いたいことを汲み取ってわかりやすい英語に変換してくれたり、本当に会話の面では力がついたと思います。お昼休みには立派な P. E. ビルディングでスカッシュやボルダリングを楽しんだり、ダウンタウンのカフェに行ったりしました。また、たまに工場見学やハイキングなども楽しみました。



**皆で行った
Bryce Canyon**



**韓国の学生を交えた
ディスカッション**



**ダウンタウンの
GRAIND CAFE**

《ホストファミリー》

私は同じプログラムの函館校の女の子と一緒にホームステイしました。ホストファミリーは3人とユタにしては珍しく少人数でしたが、ホストマザーが休日はもちろん、平日の夜まで様々な計画や提案をしてくれて、とても楽しい日々になりました。おかげで疲れ果てて毎日ぐっすり眠れたのもよかったです。

ご飯に関しては、うちは朝は自由、お昼もサンドウィッチを自分で作って持っていか、学校で買うか自由でした。晩ご飯は毎日きちんと用意されていました。

ホストマザーはとてもお話好きな方だったので、最初の頃は耳が慣れるまで聞き取れなかったのですが、その分順応できるのも早く、リスニング力がついたように思います。



ホストファミリーと

《最後に》

このプログラムには特定のスコアも要らず、人数制限もないことから、英語の基本的なことを学べるプログラムなのだと思いついて入っていたのですが、その年の先生にもよるのでしょうか、ESL の授業は特に日常会話程度は理解できていないと先生が話している内容すらまったく理解できず、毎日辛い思いをしました。もっと英語を勉強してくればよかったと何度後悔したかわかりません。しかし、その中でも学んだことは、聞き取れずわからない内容をわかったふりせずに理解できるまで聞くことです。こちらが言葉につまっていると、相手も意味が理解できていないのか、質問に対する答えが英語で表現できないのかわからなくなります。英語にも多彩な表現と言葉があるので、何度も聞き返せば理解できる説明ができて、先生自身も私たちの理解力を知ることができていたようでした。また、逆に私たちも発音の問題で何度も聞き返されます。それに怯えてなにも言えなくなったり、誤魔化したりするのはではなく、何度でも大きな声で使いたい表現や言葉をはっきり発音することも重要だと思いました。

たとえどんな結果になろうとも、アメリカへ行って短期間でも暮らすことはどんなものでも代えることのできない、かけがえのない体験になります。もちろんすべてがいいことづくしではなかったですが、私は行って本当に良かったと思っています。最後に、アメリカでの私の家族となってくれた Fletcher 家の皆、一緒に行った仲間、支えてくださった HUE、SUU の教職員の方々へ感謝申し上げます。本当にありがとうございました。